



天羽衣

上

13
2933
1



へ13
2933
1-2

天

へ13
2933
1

江角末月書

志

昭和九年
七月九日



2-7-9

漢の董永魏の聖武皇帝の故事は類を
 唐國もなほ多るも我國のいとも
 ありて似たり。そのも天女下りて羽衣を失ふ事
 事元々集る風土記を引く丹後國のなまけの
 とも又曾祿好忠が交ふよこの海よまづかぬらん
 ともあことがあふの羽衣あつらんやよよあふらん
 ことと近江國のあふらん
 又曰説子河内國天の河もさる事ありて今母らるの

故事は類を
 我國のいとも
 丹後國のなまけの

近江國のあふらん
 河内國天の河もさる事ありて今母らるの

孫河内子何りともぞ志^{あま}あつたりたる。後拾遺集^{とよ}に能^こ因^り
法師^しらどをある天の羽衣昔^{あま}までふりくみ袖^{そで}を^まあ
そつり^いと^いたるを伊豫守^{いよ}資業^{すけ}が任の時^{まか}と^まあ
伊豫国^{いよ}なるま^まあ^あ。今^{いま}駿河国^{しゅんが}も^も度^どあ^あみ
羽衣^{はいつ}の^のね^ねい^いふ^ふある伊豫^{いよ}の^のま^まあ^あと^とあ^あみ^み
あやま^あつ^つたるま^まあ^あと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^み
所^{しよ}舞^まといふ駿河國有^あ度^ど濱^はま^ま神女^{かみめ}ありて舞^まくらを^を
くらせる物^{もの}か^かなりと童蒙^{どうもう}あ^あと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^み

車^{くるま}あ^あと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^み
た^たと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^み
せ^せる物^{もの}は^は駿河國^{しゅんが}ら^らど濱^はま^まと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^み
よ^よう^うの^のつ^つと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^み
年^{とし}よ^よら^らつ^つせ^せる^るた^たり^り真^ま偽^ごを^をま^まと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^み
懲^{ちやう}の^のた^たし^しあ^あを^を奉^{ほう}た^たま^まと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^み
あ^あと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^みと^とあ^あみ^み

六樹園

六の月二日

江戸

あづま何そびの駿河舞とのまがま物ものをさあまひと人から名なのこ
ありていりある詞ことばもまもねもあるごととまへ天女の
下くだりて舞まいうさひつるをううせる物ものありはめつこも
あまたままとままつ子こ抽出てきしゆしてその古雅こゑあるをまま
まむらゆのあま

東遊 駿河舞の歌

○うどたま濱ま子こ駿ま河があるうどたま濱ま子こうちよさるな波なち。
あゝくさのいも。あゝこそよー。とこそよー。
あゝくさのいも。あゝこそよー。あゝるとま。
うざいねあんや。あゝくさのいも。あゝこそよー

○あぢあぢうけ。あぢあぢうけ。あぢあぢうけ。
ぬりのもの。ころもの袖そでをぬて。あぢあぢうけ。
○ちどりのゆき。駿たまは出でくあそぶ。ちどりのゆき。
あやもあまき。小松こまつがうき。あやもあまき。
あやもあまき。
○うたもあまき。かたはあまき。うたもあまき。
あやもあまき。あやもあまき。あやもあまき。
あやもあまき。あやもあまき。あやもあまき。
あやもあまき。あやもあまき。あやもあまき。
あやもあまき。あやもあまき。あやもあまき。
あやもあまき。あやもあまき。あやもあまき。
あやもあまき。あやもあまき。あやもあまき。

そくりや
白良
天女の
舞を
見ろ
とろ



天女の舞を
見ろ

三

上之巻

- 三保浦 ミノウラ
- 磯田濱 イソノハマ
- 舞筭 マヒ

下之巻

- かごみのこがね カゴミノコガネ
- 物花たをるあうどち モノハナタをるあうどち
- 尼法師お姫の君 ニハシラオヒメノキミ
- あまつをとめ あまつをとめ
- 忍ぬのこ ニヌノコ

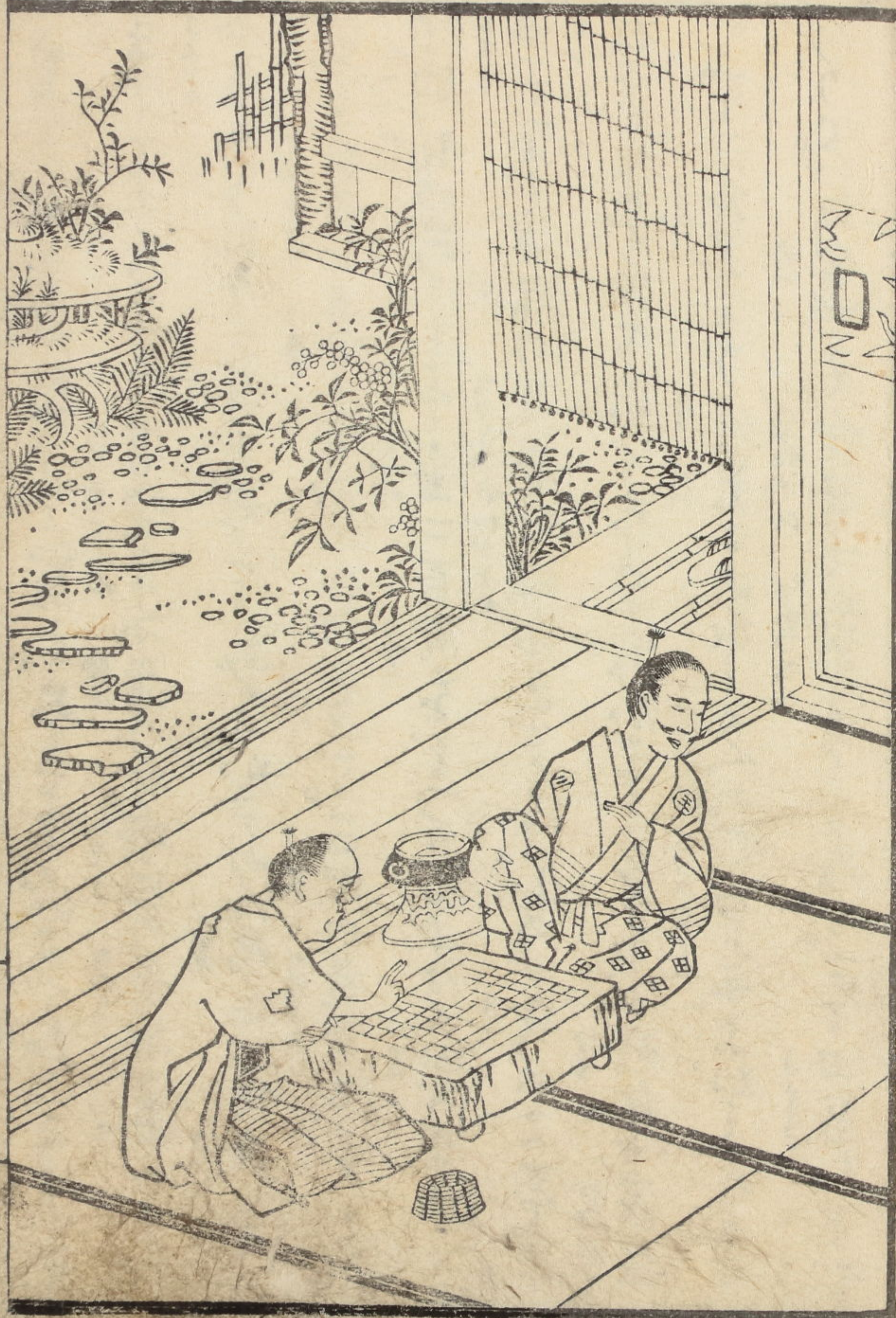
天羽衣

○ 忍ぬのこ

安閑帝の時あんげんていに傳へし事まことど其時代をそのいよひ知りしがごと昔駿河のむろ國有度郡くにうぢ三保の長者といふ豪民ありごうじんなり同下おなご三保田乃さんぼ長者といふ者あり相とめあひまは常ならず富める家とこふく田島たじま敷多めちて召仕めいじの多くありて細こひくせせ塔たやうせせあどどそとを國くに一ひと出いて商あきかひひるるけ磯田三保の二人の長者かこのこ親ちかくかかららひてひててちちののししななぶぶちちありありるる常つねにに園ゆゑ基もとをを好このみてこのてこの昼夜ちゆうやををいいままぎぎてて二人ふたりささししむむららひひてておお樂たのしみしみ興きようががありあり。

十月の初の比例のざとく。暮らちてありたる子。三保の長者が妻
 俄子鬼のけつきて。おゆみ々を産む。家の内さるる。とよみ々る
 うら。産まくと。男子を産む。磯田もけさるる。其を産む
 さして。やがて家子あつる。其日夜子入りて。妻ある
 の。おあぐく。男子をうみぬ。両家とも。さざりりの。高富あり
 々。産養のねがひ。とやして。出入る人。ひきまき。を賑を。ま
 事。うがさる。あり。さて。一二日を過して。長者あ人。出あひく。
 牙小出。産の悦び。ひかして。磯田ひきくる。おあぐく。我々
 常々。其を。お遊び。て。睦く。か。て。ら。あ。中。ふ。一。日。の。中。子。相。共。み。

妻の産せる事不思議といふ。うら子。け子ども。今より
 兄弟のむまびと。生涯親を失はざらん。やうこそ。ねがひ
 々。産と。う。三保も悦びて。さて。子ども。の。代。は。至。り。て。も。
 まさく。喜ぶ。き。う。う。と。て。産。り。か。さ。て。め。ろ。も。も。子。お。言。ひ
 を。そ。あ。う。う。磯田名を。う。う。母。よ。ぶ。づ。ま。と。う。だ。三保長者
 ま。う。お。案。ぶ。て。時。ハ。十月。あり。十月。ハ。良。月。あり。佐。身。の。子。々
 夜。生。息。各。子。ハ。昼。生。息。也。と。我。子。々。自。良。と。よ。ぶ。佐。身。乃
 子。と。黒。良。と。よ。ぶ。ん。ら。う。う。み。と。う。だ。磯田。亦。あ。と。く。黒。白。を
 以て。昼。夜。子。あ。と。く。事。お。め。う。う。自。良。と。よ。ぶ。母。生。息。出



天の月



三保の長者が妻の出産せしむ

三保の長者が妻の出産せしむ

一見して見定むべしと云ふ。あはれなり。いふもつゝまゝにぞ。
 まじりたる。さて其翌年子至りて後田の長者が妻やうび
 女子をらみたる。是をさうみまを。かすめん為ふとて生長の
 後々白良が妻とまづくらしむとぞ。三保の長者もよろこび
 て聘礼のあつしとて金二百兩をぞつうさくたる。けうまはし
 女子をぞ。三保の長者我婦あきぞとて。おのぐ氏母よせて。小
 松とぞよだせたる。かく志くしみかそくたるぞ。後田が家恩
 をぞ三度たり火災たふあひし。召仕買母よからぬの
 ありて。いふ合せとて金奪て出奔せらるもあり。さて田畠あどる。

年ごと子不毛うちほぎきてたふ勢を失ひて商をもちささ。

戸をさしかこめて。あめり居たるを三保の長者心づる。思ひ
 て一日後田を呼む。其名盤のうし子金ども。うづとく積
 ちし。外子田畠の券あど。せり出て云々。ち。内財産業
 利を先ひのつる事見る。不忍びぞ。我家の財をけりちてま
 するあり。今年一更く本のごとく。とりいともみぬ。いふ。

後田の思ひかたぬ事あし。い。なりをつま。手を入
 て。け。思ふ。死してたともありて。報ひな。う。と。三保
 云々。い。黒良と。白良が。為。小松。が。

かづぐ余所子見ん道理ありと思ひを思ひのびそといひたり。
 そのうち光陰ももて白良黒良ハらふやうに母ありて
 病瘡を及とらる子黒良らふとわろく。まがくや疾愈
 なる丹白良が病瘡しとおひくて命も危きにさぬやを日え
 たる父の長者あまき思ひて三保の明神子ありていりて
 白良が命救せぬとんと肝膽をくぐまき祈りたる。その
 まらゝやありらん。からう志き命をりりる。たまりりるが。
 まらゝも。まらゝまらゝはまらゝつきのありしが。見るまらゝ
 てまらゝ顔とありて痘のあと。ひまもあつてまらゝと腫きて

さあぐら鬼のごとくぞんえたる。まらゝで命ひとりひろひたる
 を。おのまき功とて男子の顔貌をえらぶまらゝはといひ
 耐心めつ。いよく大事と志きまらゝ。け三保の長者慈悲ふりま
 らゝ。やうつらふ者いさうあり一村のまらゝ。まらゝ者をも常
 丹懐びて惜をかけたる。一年駿河遠江のまらゝ。大を出る。
 田島をお流し。まらゝを貧民どもを食ふまらゝ。物あつて皆
 飢ゝ死ふらゝんとまらゝ。三保の長者例の慈悲心をおこして
 倉を開て積まらゝ。米まらゝども出して貧民どもあつて隣国へ
 人をまらゝりて穀物あまらゝ。買とりてあまらゝ。まらゝらち

つらさく々^{おほい}と難^{なん}はあつる民^{たみ}ども叶^{こた}三保^{さんぼ}が真^ま子^こよりそ。
 危^{あやふ}き命^{いのち}をたまかりそ。ひとへに長者^{ちやうじや}が徳^{とく}をぞ稱^{しやう}するは
 長者^{ちやうじや}さる田舎^{いふり}子^{おみ}生^なくち々^{ちやうじや}と志^{こころざし}氣^きある者^{もの}みそ。聖^ま王^{おう}經^{きやう}乃^{なり}
 道^{みち}で志^{こころざし}ますを朝^{あさ}夕^{ゆふ}白^{あきら}良^ら子^こをくく。白^{あきら}良^らも醜^{みにく}き面^{おもて}
 むも似^にぎまろ忠^ま直^{ちやう}あそ書^{かき}の道^{みち}子^こ心^{こころ}を入^{いれ}く習^{あそ}ひ思^{おも}ひ
 々^{とき}時^{とき}子^こ三^{さん}保^ぼの長^{ちやう}者^{じや}とく六十^{あそ}不及^{あや}び々^{あや}。誕^う辰^んの日^ひは當^あり
 て。迎^{むか}まこころのんを請^{よび}て酒^{さけ}のませそ。あつる郷^{きやう}食^{じき}應^{おこ}して
 をて子^こひとんの櫃^びとり出^いていひ々々^{いひ}。こは子^こ入^{いれ}置^おくらる。
 と一^{いっ}二^にろ^ろちりまむとま。よねこがねくつうは。ケん
 年^{とし}以^も近^{ちか}村^{むら}子^こ住^するく一^{いっ}米^{こめ}金^{かね}借^か生^{せい}くつる券^{せん}か小^こくぬ。あま

借^かりりるく。各^{おの}今^け日^{にち}をい。あかぬらるく。あま
 返^{かへ}りのそん事^{こと}實^{まこと}子^こ難^{なん}から。こゝろおのそ。壽^い延^{えん}めい
 ぶと母^{はは}け奉^{ほう}人^{ひと}く。返^{かへ}るまろ。まろあり。反^{かへ}古^ことあ。破^やり
 捨^{すて}めんとて。く。子^ここ。借^かりつる者^{もの}ども。大^{おほ}子^こよろこび
 て。さ。も。悉^{しつ}き。知^しら。ふ。と。利^り息^{そく}を。ま。ら。せ。て。思^{おも}う
 つる。本^{ほん}を。と。取^とり。め。を。ぞ。奉^{ほう}返^{へん}。め。ら。る。事^{こと}。あ。り。が。ら。や
 か。ら。る。額^{ひたか}小^こ手^てを。あ。げ。く。あ。ら。む。嫉^{いっしやう}ま。の。身^み子^こま。と
 ら。あ。あ。あ。か。ら。る。人^{ひと}の。し。つ。ま。ぎ。も。長^{ちやう}生^{せい}。て。お。を。せ。か。し。ま。と
 と。り。ぐ。ら。い。を。あ。り。て。ま。り。ら。る。お。三^{さん}年^{ねん}斗^とる。く。三^{さん}保^ぼ乃^{なり}

秋の月夜

五

長者ちやうじやかりそめあまの子こ頼たのみみくくるるが。定ぢやう業ぎやうあありりくくんん。志しづづのの後ご
 不ふひひくく弱よりり母はは弱よりりて。終つひ不ふああくくもも成なりくくるる。自みづか良りやうららすすらら
 あり。母ははががああぐぐささ。太おほ方ほうああららずず。ささままででせんんかかててああららずずかからら
 ぶぶとと。葬さう送そうのの事こと。ととりりららととああととて。むむああーーまま煙けととららああーーくくまま。
 ささてて自みづか良りやう々々父ちち子こ別わかききててよよりり。ひひまま籠こりりててののとと暮くししあありりがが。
 ろろうう。夏なつののややりり。七しち年ねんををりりををるる。母はは自みづか良りやうがが学がく問もん丹たん
 のの心こころををししてて。ひひままととちち籠こりりををささでで。疾はやみみああやや頼たのみみ
 ああんんとと心こころををつつららひひてて。おおくくをを淡たんづづ。一ひと生なまくく心こころををもも慰なぐさめめよよととて。
 ののどどりりあありり日ひああららずず子こ。ああーーとと。ややりりぬぬ自みづか良りやう今いま年ねん十じゅう七しち子

ありぬ。鏡かがみよよ向むかひひててもも我わが身みああららずず。ううととままああきき面うらななををああららずず。
 若わかきき心こころああららずず。耻はぢおおひひてて。みみどどうう子こ外とへへ出でるる事ことももせせざざりりまま。今いま日ひ
 とと母ははのの志しひひてて進すすめめののんんままぎぎととてて。一ひと人にん残のこ遺いづづととみみ子こああららずず。
 往ゆきくく。ちちりりかからら七しち月げつのの比ひぶぶ。早あつ者しやうささ堪たぐぐ。かかりりくく身みををああららずず。
 松まつののゆゆととよよ笠かさ歩あままてて推おすす。釣つり竿ざん取とりり出ですす。浪なみののままみみくく。
 絲いとささししおおろろとと。道みち遙とほしし。ちちりり。おお見みせせららずずまま子こ。母はは海うみののおおひひてて。
 とと。ささららぐぐとと見みてて。ささききてて限かぎりりももああまま子こ。帆ふけけらら船ふねののららとと。
 ささぐぐ母はは子こ見みせせららずず。磯いそ紐づなのの松まつをを。緑ろくののろろ濃こくく。むむららとと。
 立たちくく母ははよよせせかかつつるる。浪なみのの自みづか玉たまをを。ちちりりととささぐぐとと。朝あさここぐぐ舟ふねをを。

よーあーふと。よあがりなんも。なよと。見こころ。あつる子。ああ
 ちう松うげの。ちちるん子光りて見ゆ。あや。何あつらんや。
 ちづりあ。おもみ行きて見ゆり。とまご。何てまらあるかの唐
 衣着しうが。五人むらり。舞かあて。遊あつり。其姿さあつら
 繪子かましう。天人といふ物のあま。けあつり子。かろらん乃
 あつづきやうあ。不思議あり。と目をつけまをうま。け天女
 ちち。よあつ。舞子心やとら。なん白良が。何ひを。あもあつご
 何ま。とび袖を。返して舞ふさる。おの。ちまき事。たとつる母
 物あ。あまあん。天上子。いふめる。霞裳羽衣曲。よと。おめひる。

且感^らどから^ら敬^まめて。をを。松のう。うを。廻りて。近^ちくありて
 見^みとご。松が枝子。五彩子。光まる衣。かけあり。か。あま。渡まる
 あと。玉をの。ぶ。う。う。が。あ。か。と。と。思ひあ。う。手を
 の。か。の。衣をとり見^みる子。か。う。ま。き。事。い。なん。か。あ。
 白良おの。を。ぎ。声。うち。あげ。あ。ま。ま。類。あ。ま。き。衣。あ。と。い。い
 子。驚。ま。て。天。女。ち。ち。ひ。と。く。白。良。を。ん。る。白。良。地。ま。あ。て。ん
 信。あ。ま。ま。つ。て。唐。遊。を。さ。る。う。げ。つ。と。い。た。天。女。ち。ち。ち。ち。今。日
 相逢ふ事。因縁あり。汝が家世。陰徳をつ。あ。事。さ。あ。く
 天宮子。夢をぬ。よ。り。て。け。衣。志。だ。い。汝。子。願。け。つ。う。は。と。あ。り。これ

秘め玉あざ。さいをひまよあうぐ。今あり千日を過す。
 あざ。家子まりて其衣うけとる。うらふ白良様ゆふくりて。
 そもゆづくふ。まませぬる。床かきぐみや。と定を汝まじまや。
 天帝ふ十二億の天女ありとる。寶積經おもあうたり。
 但汝宿業よりて今志を。夏めちや見あ。ああがら子
 徳るあうまうと云ひて。たなびく雲子。のうよと見えしう。
 ひとく雲居をさしてぞ。のり行きくる。白良うらう心も
 ちく。大空を仰ぎてあうりくるが。あまうりよ大可畏の事あま
 ぢ。とく。るりて母子告たる。かの衣を袖ぐとよ。狭みく。

道を急ぎて。あうんとまうりよ。おのひがけあく。黒良赤あひ
 しく。とまも納涼よ出たる。と見え。割龍酒筒あまの。を
 て四五人うも。とて。白良を呼とめて。あうり。あま見
 あり。一杯をさうめ。あうん。先とて。淡造は種あうせて。手を
 とま。い。あま。あうねた。のり居らう。黒良ひま
 酒をうあが。白良よ志ひ飲ます。めとよう。白良下戸ある
 う。あま。強ら。つげ。飲よの。あう。前
 後を忘。あ。黒良伴ひ。あ。者。あ。月を。あ
 て。白良が。持。あ。包。あ。入。あ。従。あ。者。あ。負。あ。て。あ。辭。あ。卧

天の神と石の上



白良が
 酔みしる
 不ど
 黒良
 羽衣を
 ぬぎまて
 行くお

天の御心

くら白良をば。破地はまろがし。種るませきかやうが。酒の
醒ぬるまよ。とくを去るべし。けをよのつねの物もあらず。一定
稀ある寶あるべし。よき所得ちつと。ひては。きよみく。
角りのかたる。時たうり。て白良目さめて。あつりを見ま
だ。黒良を見ま。推う。一。羽をなをさ。さて。黒良が
盗てのち行つるあ。ん。こせ。生ひては。と。が。あ。お。の。ま。各。や
おひあ。ん。心も心あ。く。ま。や。う。て。足。を。を。ら。せ。て。後。田。が
ゆ。と。は。往。ぬ。黒。良。が。門。は。も。ろ。居。ら。る。ふ。逢。て。衣。を。生。つ。る。こ。と
を。り。が。黒。良。つ。ま。あ。し。猶。づ。ら。り。て。そ。の。辭。ふ。の。ん。が。お。こ。し

つきど。答。ぶ。よ。志。め。を。ね。が。と。生。く。その。ま。は。子。の。り。ま。つ。ま。あ。の
い。う。あ。る。物。も。ち。て。の。り。う。く。我。ま。る。ぬ。事。あ。り。と。い。ふ。白。良。が
云。く。さ。ま。ま。お。の。ま。が。物。も。て。も。ゆ。を。ま。ぎ。子。細。あ。り。て。人。あ。り。説。り
く。る。物。も。と。生。ひ。て。ま。世。も。も。あ。る。ま。ぎ。の。い。う。で。返。し。の。ま。り。あ。ん
と。い。う。で。黒。良。を。う。く。ち。て。さ。て。ま。我。盗。く。と。い。ふ。あ。の。ま
も。後。田。が。子。あ。り。何。の。不。足。あ。り。て。人。の。寶。を。を。奪。ふ。づ。き。と。う。も
み。み。く。の。が。白。良。と。君。の。う。で。盗。と。志。め。ふ。づ。き。戦。や。ま。と。り
か。く。の。り。あ。る。ま。と。い。う。で。黒。良。が。下。人。ど。も。立。出。て。こ。が。主
を。盗。人。と。さ。し。た。る。案。糸。糸。あ。り。と。て。答。め。く。の。の。あ。ど。や。り。て。

立ち上る。白良も志ひて争せん。かまが次とつるといふ證
 據もあらず。耻を見んも中くありと思ひ返して面をさへ
 てさくらもさくらを志しせのそぬふさくらゆゑ。返り
 時子種の中子。まぎまて入らねと。思ひて。同
 じ。さくらあり。さくらんや。異所を尋て見ゆとんや。さくら
 あり。黒良が下んども。口子我主子。あつね事をいひけ
 づ。不當のみの。死ぬる。あつてきてさくら。返り
 白良。さくらあり。さくら。道をか。おめ
 るら。さくら。か。黒良が奪する。さくら。さくら。

たづねさがる。一と思ひて。家子ありて。母子。か。く。し。諸
 事。母もあらず。且。養子。ま。づ。く。心。を。さ。め。て。よ。く
 尋ね。づ。一。と。い。ひ。く。初。月。は。を。経。ぬ。ま。ど。よ。ま。年。が。ら。も
 あり。い。ひ。出。づ。き。時。も。あ。り。て。日。を。さ。ら。す。

○いそぎの演

このこ。り。り。三。保。が。家。さ。し。も。あ。り。び。あ。ま。富。家。あ。り。々。ま。ど。年。の。人。子
 物を。絶。て。事。過。か。あ。り。さ。ま。家。財。の。半。を。こ。け。て。後。田。が
 家。つ。つ。り。す。又。国。中。の。飢。饉。を。救。ひ。ま。ど。十。年。が。ら。り
 が。不。ど。昔。の。十。が。一。も。及。ぶ。ざ。ら。ゆ。り。子。お。と。ろ。ふ。ら。り。白。良。と

天の御心

十一

母と合つて。家事をいとあまをせ。美かひぐし。かろが。
 年どと。おのふよ叶まで。今いれちけし。田畠あどを。
 質子しきて。其志ろをめて。世を送りける。や。つらなる。
 女どの。かくおとろく行くを見。各さめぐの事。かこつけ。
 いとゆをこひて。出行きま。今いた。と。比れ。つらなる。
 久との。翁一人。どの。つらなる。け翁あ。くし。年。者。
 めく心あ。つ。美。心を用ひて。つらなる。後田が。家。年。ど。
 さ。り。親。かり。が。近。ま。は。あ。り。て。黒。良。あ。ど。も。来。る。
 事。あ。い。し。く。疎。遠。あ。ど。あ。り。る。後。田。が。家。も。年。ど。も。あ。り。

井成て田畠あども。数。ひ。執。事。ん。あ。く。た。り。る。事。ど。
 三保が家の。園。筋。を。聊。た。ま。け。ま。り。さ。ぎ。黒。良。の。よ。り。又。よ。
 おと。ね。ち。ら。ご。あ。る。者。あ。く。物。の。あ。ま。を。ま。さ。げ。た。ら。よ。く。
 つ。き。あ。く。ぞ。う。ま。ひ。ら。る。妹。の。小。松。も。あ。り。十。六。も。あ。り。る。が。
 自。ら。ら。る。も。あ。ど。も。あ。く。ぎ。美。か。り。か。り。る。事。だ。後。田。事。し。ら。ひ。
 あ。ま。せ。ら。る。ら。娘。つ。ま。さ。あ。き。時。白。良。が。妻。と。さ。ぎ。く。物。つ。れ。ど。も。
 か。ま。が。家。年。ど。も。あ。り。行。く。の。と。あ。く。ぎ。白。良。が。か。ち。懸。く。
 さ。あ。ぐ。鬼。も。あ。り。見。ゆ。さ。る。の。の。よ。り。て。小。松。を。あ。つ。ら。
 づ。近。国。を。尋。て。ら。ら。ら。ち。あ。ひ。ら。る。者。あ。く。が。婿。と。定。む。

づーとくつと事も同じく心ねぢけく女ありくを昔の
 契りをもと思たまふもぐらふづきてをりくる。さて白良が
 家も次子を負くありゆけど残田が方ゆく聊顧見ごま
 せごまを老僕ある久た子をたうて母のまよ出てを
 くる。故主存左の時家財の半をよけて残田がゆくと
 違ひて事我あるあり。まうるま今一銭の助をよせず
 あまよ。つとあづけく。時二百兩の聘おをつらまを
 をけはる。近国をすあまを。婿をえく。まんと
 けく。あまのまある。残田があるまひ母く

少だ。おのまか。昔より故主のあつ。やぐませ
 める事あ。中出て。恥がせてゆひあん。白良が母
 涙を同よけて。ゆぐら。あ。我家
 今。あ。後見の人。あ。残田が家。争ひ。り
 とも。い。勝を。ま。か。云。あ。身。成
 くと。あ。白良云。小松の。せも人。ま。生
 た。我。醜。を。厭。ひ。ま。事。も。あ。る。づ。我。も。ま。あ。

強て昔の契りふか。て彼を迎。ん。心。あ。る。ま。た。残田が
 家。も。父。君。の。恩。を。思。ひ。て。聊。あ。り。と。も。け。負。つ。を。救。ひ。た。れ。を。

天の赤い雲

うまか〜かん〜の〜が〜く〜た〜ま〜の〜りの事〜の〜で〜侍〜が〜ん。
 おの〜は〜ん〜後田〜が〜の〜の〜を〜り〜て〜口〜を〜ひ〜く〜ま〜て〜見〜ゆ〜ん〜と〜て
 しろ〜を〜母〜が〜ま〜て〜口〜論〜を〜い〜ま〜て〜毎〜益〜の〜争〜ひ〜を〜ど〜お〜せ〜を。
 と〜い〜つ〜けて〜生〜ぬ〜え〜も〜い〜ろ〜ぎ〜後田〜が〜め〜と〜よ〜行〜ま〜て〜門〜よ
 り〜て〜久〜さ〜も〜ま〜り〜て〜ゆ〜と〜い〜ひ〜入〜出〜を〜せ〜て〜待〜か〜る〜と〜時〜を〜く
 過〜ぬ〜ま〜ど〜出〜て〜あ〜ま〜ざ〜久〜ま〜い〜下〜男〜を〜ま〜ね〜さ〜く〜ま〜り〜く〜い〜
 つ〜が〜奥〜が〜な〜く〜く〜く〜ま〜い〜ど〜ま〜ら〜く〜く〜せ〜ぎ〜日〜暮〜よ〜及〜ぶ
 以〜て〜女〜出〜ま〜て〜こ〜あ〜と〜と〜く〜を〜と〜も〜あ〜ひ〜く〜産〜づ〜と〜い〜つ〜ま
 行〜ま〜て〜縁〜の〜う〜ま〜の〜が〜せ〜ら〜お〜ま〜ど〜あ〜り〜て〜障〜子〜明〜さ〜せ〜く

奥の方子は茵をぬて後田まの婦をて遙みくをに見る多りて所を
 ありて希り〜と〜の〜之〜月〜を〜あ〜げ〜て〜見〜る〜み〜ま〜婦〜が〜侍〜の〜手〜代
 と〜見〜ゆ〜る〜者〜七〜八〜人〜あ〜ら〜び〜あ〜て〜事〜の〜体〜の〜と〜お〜ざ〜る〜う〜と〜あ〜ま〜だ。
 ち〜は〜臆〜し〜り〜と〜ま〜い〜ど〜と〜ま〜を〜む〜て〜ま〜あ〜く〜ね〜だ〜と〜ま〜ら〜る〜ら〜ま〜り〜と〜せ
 の〜う〜が〜あ〜く〜く〜三〜保〜の〜家〜合〜の〜一〜月〜の〜た〜く〜と〜く〜も〜ゆ〜る〜子〜を〜親〜子
 も〜も〜安〜き〜心〜も〜あ〜く〜く〜ま〜を〜く〜と〜ま〜い〜ど〜昔〜乃〜の〜う〜と〜ま〜を
 お〜ろ〜の〜ひ〜で〜今〜日〜の〜見〜ゆ〜る〜ま〜い〜を〜救〜す〜せ〜の〜ひ〜ま〜い〜且〜の〜信〜え〜る
 む〜ま〜い〜び〜ま〜い〜の〜塔〜目〜君〜の〜由〜整〜う〜り〜め〜ら〜く〜ぞ〜市〜お〜め〜て〜お〜せ〜あ〜も〜ゆ〜ひ〜ま〜ん
 と〜の〜や〜ま〜も〜あ〜ら〜び〜て〜後田〜大〜声〜を〜云〜ら〜る〜へ〜娘〜が〜主〜の〜家〜合〜と〜ま〜り〜

天の目



赤

白石の僕
磯田子
お擲
せう
夕



天の目

十三

事^{こと}も。仮^{かり}字^じ草^{そう}子^し物^{ぶつ}語^ごの^のみ^みみ^みも。志^しを^をて^てゆ^ゆぐ^ぐら^らら^らい^いよ^よく
 して^{して}ま^まつ^つて^てゆ^ゆを^を強^{つよ}く^くか^かと^との^の縁^{えん}を^をし^しち^ちて^て異^い所^{じよ}よ^よめ^めく^くせん
 と。志^しの^のふ^ふり^り。又^{また}母^{はは}の^の慈^じ悲^ひみ^みを^をゆ^ゆた^たで^で。と^とづ^づく^くを^を不^ふ義^ぎの^の節^{せつ}
 つ^つき^きの^のあ^あり^り。三^{さん}保^ぼの^の家^け今^{いま}を^を身^みく^くあ^あり^りて^てあ^あり^りとも^も。女^{むすめ}の^の道^{みち}を^を
 改^{あらた}む^むづ^づき^き道^{みち}理^りゆ^ゆを^をぎ^ぎと^と。あ^あら^らま^まら^らを^をつ^つく^くして^{して}。あ^あら^らま^まを^を母^{はは}。
 あ^あら^らま^まし^しく^くる^る。顔^{かほ}色^{いろ}し^しく^く。貧^{ひん}窮^{きゆう}の^のら^らよ^よ醜^{みにく}く^く。世^よふ^ふを^を鬼^{おに}。
 白^{しろ}良^らと^と。志^しの^のあ^あり^りを^を彼^{かれ}あ^あら^らも^も添^そえ^えん^んと^と思^{おも}ふ^ふと^と。あ^あら^らま^まの^のあ^あり^り。
 母^{はは}を^をて^てあ^あら^らま^まし^しく^く。物^{もの}の^の心^{こころ}を^をあ^あら^らま^まし^しく^く。た^たぐ^ぐ又^{また}母^{はは}の^のあ^あら^らま^まし^しく^く。
 と^とし^しく^く。娘^{むすめ}を^を頭^{あたま}ら^らあ^あり^りて^て。あ^あら^らま^まし^しく^く。あ^あら^らま^まし^しく^く。あ^あら^らま^まし^しく^く。

娘^{むすめ}たる^{たる}無^む慮^{りょ}あ^ある^る。親^{おや}の^の子^こあ^あり^りて^て。あ^あら^らま^まし^しく^く。道^{みち}を^をあ^あら^らま^まし^しく^く。
 を^を守^{まも}り^り。事^{こと}。賢^{けん}智^ちの^の子^こあ^あり^りて^て。あ^あら^らま^まし^しく^く。あ^あら^らま^まし^しく^く。
 志^しを^をて^てあ^あら^らま^まし^しく^く。あ^あら^らま^まし^しく^く。

○まひんけ

あ^あら^らま^まし^しく^く。志^しの^のあ^あり^り。長^{なが}者^{もの}と^とい^いふ^ふ者^{もの}あ^あり^り。愚^{おろ}良^らよ^よひ^ひと^とい^いふ^ふ者^{もの}も^も。
 小^こて^て。常^{つね}に^に酒^{さけ}を^を好^{この}む^む。色^{いろ}よ^よあ^あら^らま^まし^しく^く。あ^あら^らま^まし^しく^く。あ^あら^らま^まし^しく^く。
 若^{わか}く^くて^て愚^{おろ}良^らと^と親^{おや}あ^あら^らま^まし^しく^く。あ^あら^らま^まし^しく^く。あ^あら^らま^まし^しく^く。あ^あら^らま^まし^しく^く。
 目^めを^をて^て。妻^{つま}よ^よせ^せと^とい^いふ^ふ。思^{おも}ひ^ひを^をあ^あら^らま^まし^しく^く。あ^あら^らま^まし^しく^く。あ^あら^らま^まし^しく^く。
 づ^づま^まあ^あら^らま^まし^しく^く。ね^ねが^が。猶^{なほ}豫^よて^てあ^あり^り。あ^あら^らま^まし^しく^く。あ^あら^らま^まし^しく^く。あ^あら^らま^まし^しく^く。あ^あら^らま^まし^しく^く。

天の御子と云ふ上
 十

くり。雪井夜さぐり小松がかこをり離きさつしきさひあて。
 としけの物語あてきく夜をあくりつさて翌日子ありて。
 志大長者は衣束うりつて出さつて徒者み結縁あて其基
 みはみくろを殺多ゆりて入来ぬ後田親子出むりて
 奥の間子諸しきつ志をがしめて今日吉日でしべし
 の聘物をりつ。とのびく懐より金とり出て其基よさるて是
 々小松後の衣服の料よまあつさるあり。取納めひて
 湯かきてのそりあんとの後田親子一礼してまぶとて
 盃とり出て美の膳を志をが前子さるてさるぐり者

ども。あぐりさるて長者夫婦黒良もかこり子なりて美
 を吸つ。酒をのむ家の肉のそり。あかきり。あてしき
 軽ひて。美を吸て。酒のそり。あてしき。娘を
 さるてあて事おむひて物をさるて。横より上りて雪
 井を近づけて。兄とのをりつ。恨てさるて。奥の
 回ら志をがかこり子。親子さるて。盃の数をさるて。
 おぎをさるて。奥の。後田の長者印とり出て黒良よこり
 て聘物の金うけとり。志の文うきて印おして志をさる
 まるせよ。思良手より。備美の横をたの手よ

持て。うち。吸つて。盃。きり。て。み。さ。ら。し。く。と。飲。あ。り。ら。う。が。儘。丹。眼。
を。ま。さ。る。つ。い。し。ち。て。扇。うち。ひ。ら。げ。て。た。ら。あ。る。あ。り。を。あ。ひ。て。酒。
を。た。ら。へ。て。た。ら。あ。ら。う。て。た。ん。と。と。ア。ま。ん。る。ま。ら。う。ら。う。よ。う。あ。れ。を。
ま。ら。う。ら。う。た。ん。あ。く。た。り。ら。う。と。う。さ。ひ。つ。手。を。か。ま。ら。う。と。ま。ら。
子。舞。う。と。ら。う。長。者。ま。の。お。お。ら。う。ら。う。在。舞。う。ら。う。さ。あ。せ。ら。
と。制。し。て。し。ら。う。ら。う。の。て。り。あ。ら。う。の。さ。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。
の。志。あ。ら。う。と。ま。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。
た。ら。う。の。長。者。ま。の。お。お。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。
舞。出。さ。し。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。

る。の。声。を。出。し。て。舞。あ。ら。う。常。に。舞。樂。あ。ら。う。の。物。を。も。ま。ら。あ。
い。ふ。見。ぬ。田。舎。人。の。俄。よ。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。
盃。銚。子。唾。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。
さて。厨。の。方。も。表。の。か。ら。も。像。子。さ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。
敬。言。ま。す。と。立。出。て。見。ま。す。家。の。内。も。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。
鍋。を。か。づ。き。さ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。
ま。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。
あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。
か。ら。も。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。の。あ。ら。う。

夫の田舎の人だ

十三



天の宮

十三

あまりの事よあまをばて。箒杖はまて立ちあがり。が。
 家の内者うちの者もののうらあ。あものうらうらあ。あまをばて。あのみら。
 か。心こころうらうらあ。か。持もちたる箒はららうらうらあ。あまをばて。
 同どうやうな舞まい出いま。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。
 制せいしてありうらうらあ。夫つまが舞まい出いつるを見みて。あまをばて。あまをばて。
 舞まい出いま。男おとこ女めづとも。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。
 あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。
 おまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。
 かけ入いりて。箒はらか。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。

舞まいはまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。
 か。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。
 志しをば。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。
 有うらうらあ。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。
 が。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。
 の。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。
 あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。
 雲くも井いは。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。
 ち。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。あまをばて。

たり。さ。そ。の。子。細。し。う。み。て。口。つ。た。い。雲。井。ら。び。く。る。と。あ。い。ち。て
 我。り。ち。ま。く。い。は。る。算。を。食。ひ。め。た。い。心。あ。し。ぎ。舞。め。し。あ。り。
 かの。算。も。舞。算。し。や。て。ま。は。し。を。食。ひ。た。い。心。あ。し。て。あ。い。ち。
 酒。子。酔。し。る。さ。し。く。お。の。つ。い。し。舞。ま。よ。事。あ。く。い。今。は。賢。せ。よ。
 ひとり。醒。て。の。い。の。や。う。し。あ。り。し。よ。い。但。今。日。購。物。を。お。く。し。て。
 又。君。を。志。さ。ぐ。娘。子。せん。と。し。を。受。て。お。の。せ。け。た。ら。し。い。を。設。
 て。々。の。盟。約。を。破。く。せ。て。い。ら。し。り。お。り。君。の。心。じ。し。し。を。遠。
 の。さ。ん。や。う。の。た。だ。う。り。ま。い。ら。し。い。や。し。類。を。物。て。な。お。ち。あ。な。
 志。さ。し。思。良。く。大。路。よ。出。て。舞。ま。る。を。一。村。の。者。も。来。て。不。思。議。
 十の事

の。事。と。て。各。立。て。見。る。は。時。自。良。が。家。あ。る。人。の。や。ま。ま。い。や。
 て。見。か。へ。い。ら。る。が。思。言。が。ち。や。し。も。な。る。な。い。の。心。の。あ。か。し。い。
 の。一。我。主。の。舞。お。し。る。羽。衣。あ。ら。あ。し。た。か。し。思。い。し。な。い。し。い。
 事。あ。い。な。い。自。良。を。よ。び。来。て。見。せ。ま。し。思。い。し。た。か。し。な。る。
 人。を。よ。け。て。ま。い。ら。し。い。は。お。い。は。舞。井。出。ま。し。舞。い。な。い。し。い。の。心。
 人の。ま。い。の。い。る。な。ら。我。い。今。し。り。し。て。あ。い。は。あ。つ。と。て。羽。衣。を。
 と。り。ま。く。く。お。い。し。い。と。持。た。し。ま。し。い。の。心。の。あ。い。し。い。
 久。お。い。は。か。り。な。事。あ。く。あ。ま。り。ま。び。て。夜。の。し。て。足。を。洗。ひ。し。い。
 家。つ。な。い。な。思。良。と。あ。い。し。羽。衣。を。い。し。い。思。い。し。た。か。し。い。の。心。
 十の事

るはろよるひてありたるが日暮るにはあひて體つらき事にて
 りとちの者ども皆くこしと成て亦倒せたるが夜よ入りて
 ゑうやく正氣ぞつまぐるのけ日志たがふやせもあんがむちま
 算をくひてひかりま家の内のみのと舞をたひてさるひるごと
 世も思をまあ事もありたりう給た納言のまゝまいり
 今昔を語り舞算をくひるあんものまいりは山を舞まのまいり
 事を載まのまいりまいと宮あまいりまいり其世もまいりまいり思後まいりまいり
 有あり
 有あり

天羽衣上終

上二七二

